



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(143)

2021年9月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

ご支援に感謝

学校法人ルーテル学院理事長 松澤 員子



昨年来、新型コロナウイルスの感染が急増するという厳しい社会状況の中で、後援会を通じて日本ルーテル神学校とルーテル学院大学に多額のご寄付をいただきましたこと、心から厚く御礼申し上げます。また、在学生の保護者の方々や卒業生の方々からも学院や母校をお心に留めていただき、尊い寄付をお送りいただきました。さらに全国のルーテル教会の皆様からもお祈りと共に献金をお寄せいただきました。誠にありがとうございます。

や教育に励んでくださっていることを知るとき、「イエス様が私たちと共にいてくださる」という思いを新たにいたします。そして、皆様からのこの大のご支援に込められた祈りにお応えできるようにと、少子化が進む厳しい社会の現実の中で、教職員が一丸となって学生一人ひとりと向き合いながら、神と人に仕える人材の育成に力を合わせていこうという熱い教育者としての姿勢に、私は勇気をいただいております。

最後になりましたが、長年後援会会長としてルーテル学院をお支えいただきました前会長の竹内茂子様と、前副会長、推進委員の皆様、長年のご支援・ご協力ありがとうございました。また、新たに就任されました後援会会長の小澤周司様と新副会長、推進委員の皆様、厳しい時代ではございますが、今後ともご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

オンライン 一日神学校

その人を支え、
ともに生きるために
～「総合人間学」とは～

9月23日(木・祝)
13:30～16:30

YouTubeによるライブ配信

予定プログラム

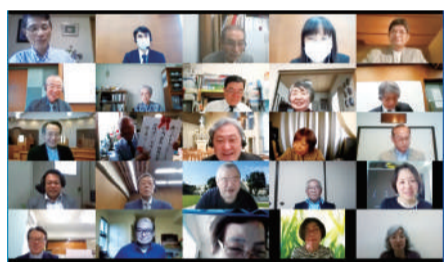
- 開会礼拝
- シンポジウム
「ルーテルの総合人間学とは何か？」
～共生の羅針盤を求めて～
- 神学生による神学校紹介
- 閉会の祈り



詳細はホームページをご覧ください。

オンライン 全国世話人代表会・ 首都圏世話人会報告

五月二十二日(土)午後一時半から午後二時半まで、オンライン全国世話人代表会が開催されました(出席者三十九名)。本会において、長年後援会にご尽力いただいた執行部が交代となり、新会長の小澤周司さん、新副会長の古財武久さんと神月靖さんに松澤理事長より委嘱状が渡されました。



終了後は希望者二十八名で一時間ほど懇談の時間をもち、竹内茂子前会長、加藤裕子前副会長、石原京子前推進委員への感謝が伝えられたり、コロナ禍での活動について知恵を出し合ったりしました(写真)。例年は全国各地から参加者が東京に集まりますが、今年

は「ご自宅」で、「こんな便利な方法があるなんて」と感激の声も聞かれました。七月十七日(土)は午後二時から午後四時まで、オンライン首都圏世話人会が開催されました(出席者三十五名)。後援会や学校からの報告、一日神学校の説明、グループでの意見交換、三名の学生によるスピーチが行われ、充実した会となりました。コロナ禍で急速に普及したZoom会議ですが、慣れると便利。今後はさらに活用の幅を広げ、本学を応援してくださる方々との繋がりを深めたいと考えています。(事務局)

後援会を応援します!!
一人ひとりに対する心配り

日本福音ルーテル
八王子教会
牧師 中村 朝美

日本で一番小さな大学・一番若い学長と評判でありました日本ルーテル神学大学の神学専修コースの最後の卒業生です。

出身教会の横浜教会には福祉科の学生が一人おられました。後援会の世話人をされていた茂木八好代さんから大學生活の様子や、困っていることはな

「一人ひとりを大切に」学びと実践

社会福祉学科卒、非常勤講師 小嶋 リベカ



現在、私はがん治療専門病院で緩和医療の担い手の一人として働いています。

応じて、身体的な側面とともに、精神的またスピリチュアルな側面、さらに社会的な側面からも専門家同士が意見を交わします。それは、患者さんの身体状況だけでなく、家族との関わりや社会での役割、これまでの折り合い方や大切にしたい思いなどを尊重するためです。私の主な働きは子育て中の患者さんとご家族を支援することです。

その臨床の場において私が心がけているのは「一人ひとりを大切に」ことです。それは、大学での学びや出会いによって培われたものでした。

学生時代を振り返ってみますと、社会福祉や心理、そしてキリスト教関連の授業を履修する中で、ロールプレイやディスカッションを少人数で行う機会が多くありました。先生より「なぜ、あなたはそう思うのか」とよく問われ、自分自身がどういう背景をもっている人間なのかを踏まえて考えることが求められました。その上で援助者として、個別のニーズを多面的にとらえ、他者と意見を交わしながら援助方法を見出す学びを重ねました。そのことは、現

いかなど、よく聞かれました。後援会の働きが学生を見守り、祈り、そして支えてくださっていることを茂木さんを通して知りました。また、神学校時代、武蔵野教会で後援会会長を長く務められた豊田静太郎さんが茂木さんと同じように接して下さっていたことも後援会が学生にとって身近な存在であることを感じました。

大学の改組に際しては学生の中でもいろいろな意見がありましたけれども、日本で一番小さな大学がその役割を広げ、大学院を創設し、多くの卒業生が各分野で活躍している現実を見るに活かされています。また、学生生活全般においては、多くのまなざしに見守られ支えられてきました。人間関係や進路のことで迷いを抱え、教職員の方々が折々に声かけや助言をくださることを、私のニーズに沿って先輩や実習先を紹介して下さるご支援がありました。さらに、私は卒業後数年間をルーテル学院大学の職員として過ごしたため、後援会の推進委員や世話人の集まりにおいて全国の支え手の方々にお目にかかる機会がありました。そこに集う皆さんが、ルーテルを自分事として考えておられる姿勢に触れました。大学のミッション「一人ひとりを大切に」する教育を通じて、一人ひとりを大切にすることを養成することは、三鷹市大沢のキャンパス内のみでなされているのではなく、全国の教会と後援会に連なる方々の祈りと支えによって実現し得ることなのだと思わせていただきました。

とき、大学を支える働きがなくなるとは、大学を失ったかと思えます。四十年近く前のことです。大学の入学手続き締め切り前日の夜、当時住んでいたアパートに逸見義典先生ご夫妻が訪ねて来られ、大学の事務室から「明日が手続きの締め切り日なので心配して、まだ来られていないので心配しています」との電話があったことを伝えられました。次の日、事務室に行くこと「待っていました」と笑顔で迎えてくださったことは忘れられないので出来事となっています。他の大学では決してありえないことだったと思っております。

ルーテル学院大学・ 日本ルーテル神学校後援会とは

ルーテル学院を物心両面で支える団体で、設立母体である日本福音ルーテル教会と日本ルーテル教団諸教会の信徒運動としてスタートしました。教会員や学院関係者だけでなく、ルーテル学院を愛し、後援会の働きにご賛同いただける方はすべて後援会会員です。

2021年度 募金目標額

2,500万円

ルーテル学院大学への献金は
寄付金控除の対象です。